

楽しい悲しい川

内畠 咲希

わたしは、川の思い出に楽しいことと、悲しいことがありました。それは、一、二年のことです。

一、二年生のころ、スホーリツクラ下のキヤン⁹に行きました。まず、楽しいことから話します。楽しいことは、魚のつかみ取りをしたことです。その川は、山梨県のきれいな川

でした。その川には、たくさん魚がいました。ですが、わたしたちは、一、二年生だったので、取りやすいようにその人数分の魚を川の一部に集め、あみかほっていました。魚を取ることができました。とてもうれしかったです。ですが、今思うと、魚はかわいそうです。川で自由に生きていた魚は、つかまえられ、子どもに追われ、そして、焼き魚になって、死んでしまうのです。でも、魚は、そういう運命なのでしょうか。

そして、悲しいこともありました。大きな
岩から川へ飛びこむことです。それ！バツシ
ー！わたしは川で飛びこみました。

「いったー！」

そう、ものすごい水圧でわたしはすくいた
く、悲しい思いをしました。ですが、友達へ
もう一回やるうとさそれたの何度もその
いたい思いをしたのです。

わたしは、川について、暴しかった思い出
を持つたかいれば、悲しい思い出を持つたも

多いと思いました。川は人にとらわれてし
まっているけれど、生き生きして流れていま
す。魚も、食べられると思うけれど、一生け
ん命泳いでいます。わたしはこの作家を書い
て、新ためて、自然を大切にしようと思いま
した。